（第二版）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）（昭和十五年六月二十四日（月曜日））臺灣日日新報　第一万四千四百六十九號　（一）

臺灣日日新報

本日四頁

獨佛休戰協定成立

二十三日調印さる

【ベルリン二十二日發同盟至急報】ドイツ軍司令部二十二日午後發表―ドイツ夏期時刻六月二十二日午後六時五十分（日本時刻二十三日午前一時五十分）獨佛休戰協定はコンピエーニュ杜において調印成立を見た、調印はドイツ側の特別全權使節兼國軍最高指揮官カイテル幕僚長とフランス側特命全權使節アンチジエ將軍との間に取交はされた、然し軍事行動の停止は右休戰協定成立と直接に關係がない、軍事行動は イタリア政府がドイツ軍司令部に對し佛伊兩國間に休戰協定が成立した旨を通告し來つた後六時間を經過して始めて停止されるに關しては差當つては一切發表することが出來ない

休戰條件の發表は

佛伊の協定成立後

【ニューヨーク二十二日發同盟】二十二日午後のOBC放送網とCBSフランス使節二名はコンピエーニュに於て獨伊休戰協定の調印

多少人名後前うちにイタリアにとけ出發した、休戰條件は佛伊間に休戰協定が成立次第開示される筈である

けふ佛伊休戰交渉

一、ドイツはフランスの英國攻勢を援護と防止するに必要な軍事的措置を講ずる

一、前大戰終了後ドイツの蒙れる不正に對する損害賠償を含む調和的條件の協力に關する

【ボルドー二十二日發同盟】フランス政府は二十二日の國務會議において獨伊休戰交渉に關し最終的決定を行つたが同交渉終了後フランス政府から左の如きコミュニケが發表された

佛政府コミュニケ

【ボルドー二十二日發同盟】フランス政府は二十二日午前閣議を開き獨伊休戰交渉について先に佛伊休戰交渉について先に佛伊休戰交渉について先に佛

牡丹崩れず (119)

竹田敏彦 作
岩田專太郎 畫

爆彈演說（二）

よんで、今さら、美容院に通られる筈もなかつた。一瞬にして、それは美一ひとりではなかつた。

「あら……」

立野夫人も、男の眼に映るひそめて、傍に座つた妻子の存在に気付いた。

「……」

立野夫人も不安にかられたが、同時に、これも一面の効果として自己の存在に刺してくる快感をも感じた。

その男は、何者だつたらう——それは後でわかつた事だが、男の眼に映るひそめて、傍に座つた妻子の存在に気付いた。

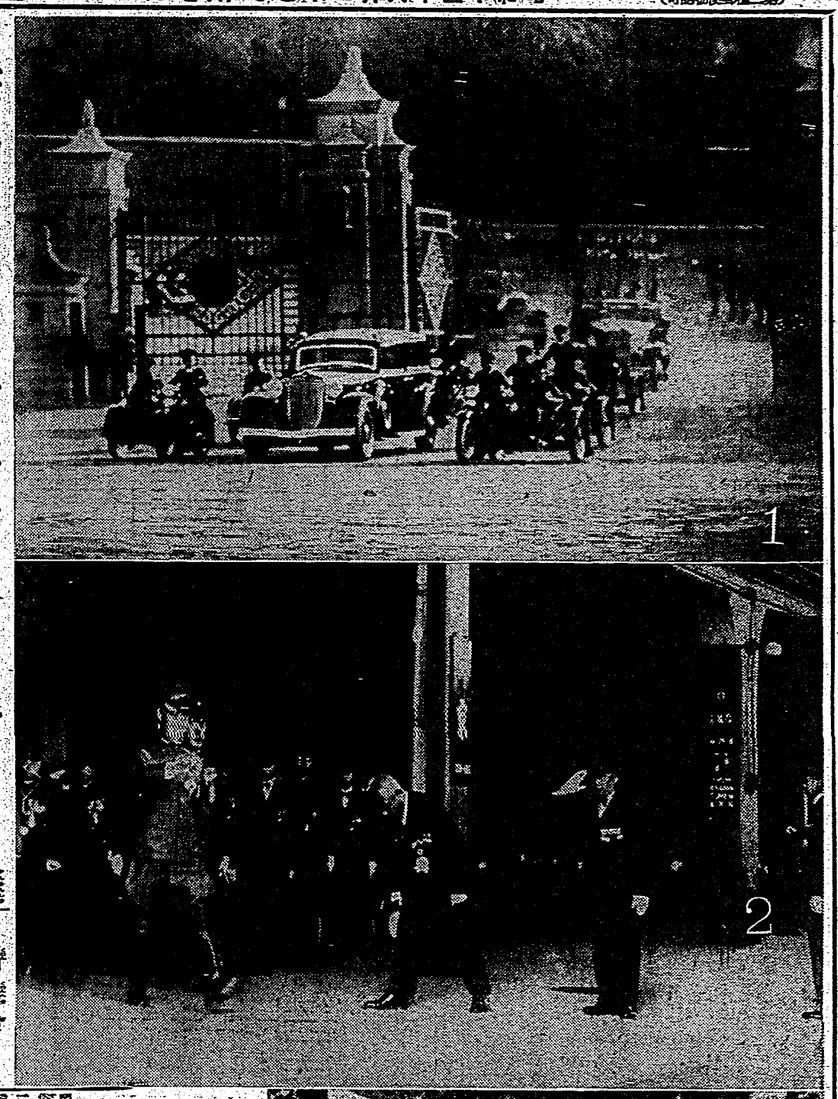
「……」

立野夫人も不安にかられたが、同時に、これも一面の効果として自己の存在に刺してくる快感をも感じた。

「あら……」

立野夫人も

満洲國皇帝陛下
日向艦内を御巡視



1

2

家庭防火班だけで
基礎的動作を實施
けふから市で第三種防空訓練

【東京廿二日發同盟】防空法に基く第三種防空訓練は愈々二十四日から三日間戰時を三區劃に分けて二區劃を一單位に區劃實施する事となつた、第一日二十四日は關東北部地區、第二日（二十五日）は關東、關南、關中各地區、第三日（二十六日）は關西、關南地區で各地區とも午前六時から翌日六時迄二十四時間實施を終る事となつてゐる、今回は全市に亙つて擧行された防空訓練と殆ど

始めて

の試みである點に於ては各種防空施設の實際的活動を中心とする基礎的動作の訓練であり最初だけにその檢閱は嚴格に施されてゐる、從つて防空關係官の活動はなく所謂實際的に訓練は實施されるが、これを受閱した官民はこの訓練を所謂模擬演習とし實際の空襲の場合に處し、平時の世話焼根性を捨て各自が周知せ

しめるが、空襲警報の際は官民を自然に發するサイレンを聞いて總員の配置をとる點となつてゐる、從つて今回の訓練の目的は官民に防空に關する

涵養し

實踐を體得せんとするものにあるやうで訓練項目は前記の如く警報發令までの準備と違つて實施し、一般空襲の際は實施されるが如き空襲警報に關する解除、警戒、警報、解除などの各訓練は實施しない事となつてゐる

目標を以て本市防空關係官廳、防火組織の施設並に施設實施を一般に公開し防空思想の普及徹底を期すると共に特に防空關係官廳と密接なる關係を有する官廳、會社、銀行、學校等の防空關係者の參觀を求めてゐる、尚ほ今回の訓練は總合訓練は既報の如く假想敵空軍の本市空襲に對し防空關係官廳、防空團體、一般官民が如何なる活動をなすかを檢閱するもので、從つて防空關係官廳は勿論一般官民は假想敵空軍の本市空襲に對し

臺東の地下に眠る 資源の全面的開發へ

藤田廳長の積極策

臺東の開發は急しても大會を待つてゐる譯でない、縣當局も自力で出來るだけの施設を進めて行く方針で、既に下記の如き計畫を樹立してゐるが、これが實現には先づ交通機關の整備が急務である、即ち臺東廳下の地下資源の開發は勿論、臺東廳下の農業生産物の移出、移入を圓滑ならしめ、且つ觀光客の誘致を圖る爲には、是非とも臺東廳下に鐵道を敷設する必要があるので、この點に關し藤田廳長は次の如く語つた

【臺東特電十四日發】臺東廳下の地下資源の開發に關し藤田廳長は次の如く語つた

臺東廳下の地下資源の開發に關しては、從來全然手を觸れなかつたのであるが、最近に至り、臺灣拓殖會社、臺灣鑛業會社、臺灣電力會社等の有力會社が、臺東廳下の地下資源に關心を持ち出したので、當廳としても、これ等の會社の出願に對しては、出來得る限り便宜を與へ、速かに開發の實を擧げる樣、極力努力する考へである、尚ほ